

「地産地消」の音楽祭 今年も



10/31-11/8

青い海と森の音楽祭

音楽祭は、国内外で活躍する指揮者・沖澤のどかさん（青森市出身）とソプラノ歌手・隠岐彩夏さん（五所川原市出身）の2人の発案から生まれた。入山事務

局長は「コロナ禍で音楽家たちは、社会でどういう役割を果たすべきなのか、と

いうことになり真剣に向き合う時間を過ごした。沖

澤さんと隠岐さんの「生ま

青森でプレイイベント



＜きただ・ちひろ＞ 1996年生まれ。広島県出身。広島交響楽団ソロ・コンサートマスター。桐朋学園大学卒。同大学院修士課程修了後にブリュッセル王立音楽院に留学。カルテット・アマビレのメンバーとして、第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門で3位と特別賞を受賞した。

バイオリン・北田さんらトーク



バッハの「無伴奏バイオリン・ソナタ第3番」より第3楽章を演奏する北田さん

北田さんは昨年、アウトリーチメンバーとして初日の東通中学校から参加。サプライズで校歌も演奏し、会場が一体となって盛り上がった。北田さんは「バスで移動中に楽譜を見ながら、ここはこういう風に、こうううテンポで」と打ち合わせをしながら向かった。私自身も演奏していて楽しかったし、本当に素晴らしい経験だった」と振り返った。アウトリーチの意義について「生の演奏を、今聴くのが初めてかもしれないし、この先なかなか出向けないかもしれない。そういう方たちに届けたい。そのうのは、すごく意味のあること」と語った。



青い海と森の音楽祭 プレートイベント 知れば、もっと楽しめる♪ 音楽祭の舞台裏へ！

人。昨年の感動を共有した。同じメンバーで今年も県内5カ所を巡る。

青森エイトが昨年着用した藍染めTシャツは、ブランド「TAKEO KIKUCHI」の提供を受け、縫製、染め、刺しゅうまで県内企業が協力して制作した。中村専務は「音楽祭の地産地消のコンセプトに合うように、糸と生地を仕入れた以外は全部県内で作った」と説明。秋開催の今年

は出演者が3段階に染め分けた藍染めポロシャツを着用した。中村専務は「一番濃い色は8回染めと公表しているが、本当は10回以上。北田さんが着た4回染めも本当は6回くらい。目指す色になるまでひたすら染めた」と話す。北田さんは「大事に着続けよう」と感激していた。

動した様子だった。

「サノロード青森のアウトリーチに行ってみようと思った。あわもりの藍の製品制作も大変なことがわかった」と話した。娘のひなたさん（造道中学校2年）は北田さんの生演奏を聴き「バイオリン1本なのにとても響いていた。気持ちのこもった演奏だった」と感

は出演者が3段階に染め分けた藍染めポロシャツを着用した。中村専務は「一番濃い色は8回染めと公表しているが、本当は10回以上。北田さんが着た4回染めも本当は6回くらい。目指す色になるまでひたすら染めた」と話す。北田さんは「大事に着続けよう」と感激していた。



鈴木康浩さん



矢部達哉さん ©Michiharu Okubo



横山幸雄さん ©Shin Yamagishi

11月3日 青森公立大で室内楽公演 珠玉のデュオ、トリオ登場

青森公立大学では11月3日、室内楽公演が行われる。昨年の音楽祭や今年6月の青森市での単独公演でも聴衆を魅了した「葵トリオ」をはじめ、バイオリンの鈴木康浩さん、バイオリンの矢部達哉さん、ピアノの横山幸雄さんといった名手たちが登場する。音楽祭実行委員会の入山功一事務局長は「ソロデュオ、トリオの素晴らしい演奏を一日で聴ける演奏会、ぜひご期待ください」と話す。



昨年の音楽祭で演奏する葵トリオ

実行委員は公立大と連携協定を結んでおり、同大の学生がチャケットのまきりや影アナウンスといったコンサート運営、グッズ開発にも協力する。チケットは全席指

2人だからこそ、丁々発止のやり取りや、あうんの呼吸が客席にも伝わると思う」と入山事務局長は期待を込める。プログラム後半は葵トリオ。秋元孝介さん（ピアノ）、小川響子さん（バイオリン）、伊東裕さん（チェロ）の3人は、2018年にミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ三重奏部門で日本人団体として初優勝し、現在最も注目を集めるピアノ三重奏団。チェコの民族的な魅力にあふれるボルザークの「ピアノ三重奏曲第4番」を短調「ドゥムキー」を演奏する。



青森公立大の講堂。ステージ奥の壁面がガラス張りになっており、自然の風景を楽しめる。

【主催】青い海と森の音楽祭実行委員会（東奥日報社、一般財団法人東奥日報文化財団、一般財団法人青森市文化観光振興財団、株式会社リンクステーションほか）
【協力】公立大学法人青森公立大学

この特集は東奥日報社ビジネス局が担当しました